

奈良県国語教育研究会報

第113号

発行所 奈良県国語教育研究会
 発行人 稲浦 寿子
 発行会 稲浦 寿子
 事務局 立広陵小学校
 広陵町平尾542
 北葛城郡広陵町
 〒745-55-2388
 ☎ 0745-55-2388
 FAX 0745-55-6838



国語教育の推進に向けて 「言葉による見方・考え方」を働かせる

奈良県国語教育研究会
会長 稲浦 寿子

深まりゆく秋を迎え実りと収穫の季節となりました。今年も年度初めから対応を迫られた感染症は未だおさまらず、各校では対策を講じながらの教育活動を展開されていることと存じます。平素は本研究会の諸事業にご理解ご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

昨年度はコロナ禍の中、これまで実践研究の両輪を担ってきた研究・作問両委員会の立ち上げを見送りました。今年度は、この状況の中でできる研究活動を進めていこうと、年度初めより研究委員会・作問委員会の活動をスタートさせました。オンラインを活用した資料の共有やリモート会議など、これまでとは大きく異なる環境の中での活動となりましたが、委員の先生方の熱心な取組と各校のご理解ご協力のもと、研究活動の充実を図ってまいりました。今年度の秋季研究大会は、宇陀郡曾爾村立曾爾小中学校より動画配信により開催します。新しい研究大会の形として、県下それぞれの地で多くの先生方のご参加を得て学びが

深められるよう、一丸となつて取組を進めています。また、「国語学力診断」においては、新しい学習指導要領を踏まえ作問を進めました。診断結果をもとに結果分析と授業改善に向けた提案を、冬季研究大会において発信します。引き続き今後の活動へのご協力をお願い申し上げます。

今年度は中学校において学習指導要領が完全実施となり、小・中学校そろって新しい学習指導要領の下で学習活動が進められています。今回の学習指導要領では、すべての教科において、育成を目指す資質・能力が整理され、その育成のために「見方・考え方」を働かせることが必要であると示されました。国語科においては「言葉による見方・考え方を働かせる」ことが育成を目指す資質・能力をよりよく身に付けることにつながると解説されています。

今夏、ふと目にしたテレビニュースで強く印象に残ったことがあります。

た。ちようど感染症の流行が拡大している時期で、医療従事者の方が病院の状況をお話されている場面でした。多くの患者さんが来院される状況を「押しかける」と述べられたのですが、画面の活字では「押し寄せる」と示されたのです。それぞれの言葉を選ばせたそれぞれの表現者の立場や思いを深く考えさせられました。「対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること」であると示されている「言葉による見方・考え方を働かせる」とは、まさにこのようなことを指すのではないかと考えます。

学習課題の達成のためにどのような「言葉による見方・考え方」を働かせるのかを明確に示すことが必要で、授業を組み立てていく過程において、どの場面でのような「言葉による見方・

考え方」を働かせるのかを、意識的に計画的に考える必要があります。私たち自身が言葉への自覚を高め、言葉による見方・考え方を鍛えることは、授業力向上の大事な側面だと考えます。

本年度は、研究主題である「付けた力を育む『読むこと』の学習活動の創造」説明的文章における学習過程の具体化」の探究を目指し取組を進めています。本会の研究が、先生方の授業改善につながり、奈良県の子どもの確かな言葉の力につながっていくことを目指して、力を尽くしてまいります。引き続きご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、本研究会の諸事業にご指導ご助言をいただいております県教育委員会並びに教育研究所の諸先生方に心より感謝とお礼を申し上げます。

秋季研究大会講師

作家・詩人 寮美千子 先生のご紹介



一九五五年、東京生まれ。一九八六年に毎日童話新人賞を受賞してデビューされ、一九九〇年代には衛星放送ラジオ STGIGA に六〇〇篇以上の詩を提供されました。

その後二〇〇五年に泉鏡花文学賞を受賞されました。二〇〇六年、首都圏から奈良に移住され、二〇〇七年から二〇一六年のあいだ、奈良少年刑務所で社会性涵養プログラム講師を務められました。幼年童話から絵本・純文学・ノンフィクションまで幅広く執筆されています。

- 『ノスタルギガントス』(パロル舎 1993)
 - 『星児』(パロル舎 1999)
 - 『空が青いから白をえらんだのですー奈良少年刑務所詩集ー』(新潮文庫 2011)
 - 『ラジオスターレストラン千億の星の記憶』(長崎出版 2012)
 - 『あふれたのはやさしさだった』(西日本出版社 2018)
 - 『おおかみのこがはしつてきて(北の大地の物語)』(ロクリン社 2019)
 - 『なつちゃんの花園』(西日本出版社 2021)
- など執筆多数。

―秋季研究大会要項―

期日

令和三年十一月五日(金)

会場及び実施方法

曾爾村立曾爾小中学校

宇陀郡曾爾村小長尾九〇〇からの

Google社Meetを利用した動画配信

日程

◇学習公開

十三時十五分～十四時

単元「学習材」

さいてしらせよう

「ともだちのこと、しらせよう」

進行を考えながら話し合おう

「はんで意見をまとめよう」

資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう

「グラフや表を用いて書こう」

研究主題について

付けたい力を明確にし、説明的文章における学習過程を具体化した実践による読む力の高まりを実証的に報告する

事務局 田中 奈生

さわやかな秋風が吹く季節、曾爾村立曾爾小中学校を会場としてGoogle社Meetを利用した動画配信にて、本年度の秋季研究大会を開催することになりま

◇実践報告及び研究協議(分科会)

十四時十五分～十五時五分

◇開会行事

十五時十五分～十五時四十分

◇記念講演

十五時四十五分～十六時四十五分

演題

「詩が開いた心の扉」奈良少年刑務所 絵本と詩の教室」

作家・詩人 寮 美千子氏

◇閉会行事

十六時四十五分～十七時

した。開催に向けて格別のご尽力をいただいております曾爾小中学校の先生方に、深く感謝の意を表します。

さて、本会では、「付けたい力を育む

『読むこと』の学習活動の創造」

的的文章における学習過程の具体化」を

研究主題とし、研究を深めてきました。

本年度は、小学校で新学習指導要領の

全面実施二年目、中学校においては、全

面実施を迎えました。国語科での育成を

目指す資質・能力を「国語科で正確に理

解し適切に表現する資質・能力」とし、「知

識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されました。

全国学力・学習状況調査(令和三年度実施)における奈良県の小学校国語科の全体平均正答率は、全国のそれより三・七%低く、都道府県別の順位においても学力調査実施以来最も低い結果となりました。さらに無解答率の高さも顕著であり、今後の奈良県国語科教育においてさらなる学習指導の改善が求められています。

学力調査結果を領域別に見ると、小学校国語科では、「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること」や「目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」に課題が見られました。また、中学校国語科では、全国よりも二・六%低く、「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつこと」に課題が見られました。

本研究会が実施している「奈良県国語学力診断」の結果報告では、説明的文章を素材とした診断において「文章を構造的に理解すること」、「文章全体の構成を捉えること」に課題があることを報告(平成三十一年度)しています。

本研究会では、このような動向を踏まえ、課題解決の過程としての言語活動の更なる充実を目指すとともに、「文章の構造や内容を的確に捉える」「記述の工夫を捉える」「自分の考えをもつ」といった、説明的文章における「読むこと」の力を高める授業研究を行いました。

まず、小学校の低、中、高学年と中学

校の各部会に分かれ、「読むこと」について、児童生徒の実態から、高めるべき読む能力を明確化しました。そして、学びの過程として必然性のある言語活動を吟味し、児童生徒が主体的に、学習の見直しをもって取り組むことができるように単元を構成し、実践に取り組みました。付けたい力としてねらった児童生徒の読む力の高まりが明確になるよう、説明的文章における「読むこと」の実践の成果をまとめました。

今回、その成果を発表させていただくことで、先生方の国語科授業の改善や国語教室の経営に少しでもお役に立てば、主催者としてこれ以上の喜びはございません。しかし、改善すべき問題も多く、ご参会いただいた先生方からぜひともご意見・ご批評を賜りたく存じます。忌憚のないご意見を賜り、活発な研究討議が行われることを願っております。



《低学年部会》 目的に応じて読むための 指導の工夫

垣内 有子

低学年部会では、まだ文字を読むことに抵抗があり、図鑑や絵本をどう読んでよいかわからないという児童の実態から、文章の中から目的に応じて重要な語や文を選び出す力の必要性を感じた。

今年度は、一年生の「うみのかくれんぼ」を学習材に、「かくれんぼする生き物について書かれた図鑑を読み、自分が興味をもった生き物について調べ、紹介する」という言語活動を位置付けた。

まず、児童が興味をもって学習に取り組めるよう、海だけでなく身近にいる様々な生き物の図鑑を用意した。その際、生き物のかくれ方を紹介するという目的に沿った図鑑の選定を部会で検討した。

次に、学習材を何度も読むことを大切にしたと考え、本文を打ち直した冊子を準備し、項目ごとに色分けしたり丸で囲んだりしながら重要な語や文を選び出すことができるように工夫した。

さらに、学習材での学びを、図鑑から情報を適切に取り出す学習にも生かせるよう、ワークシートを工夫した。この取組を通じた児童の読む力の変容について授業実践を報告する。

《中学年部会》

筆者の考えを自分の言葉で まとめる「読む力」を育む

小野 和恵

中学年部会では、児童の実態から、説明的文章を読み取る際に筆者の考えを深く理解することや筆者の考えを自分の言

葉で説明することに課題があると考えた。そこで、より正確に文章を読み取る力を付けるための言語活動を設定して研究を進めた。

三年生では、「すがたをかえる大豆」を学習材とし、文章構成をより正確に捉えるために、「大豆リーフレット」を作り、段落相互の関係性を視覚化する活動を取り入れた。見出しやリーフレット内の文章を考えるにあたり、筆者の伝えたいことを読み取り、自分の言葉で短くまとめることで、文章全体の理解を深められるよう学習を展開した。四年生では、「世界にはこる和紙」を学習材に、本文をニュースの話題として取り上げ、制限された字数にまとめることで、中心となる語や文を意識しながら筆者の考えを読み取る学習活動を進めた。

以上の二つの取組を通して、説明的文章を読み取る力がどのように高まっていったのか実践を報告する。

《高学年部会》
要旨を把握して読む力を
育てる段階的な指導の工夫

小原 聡

高学年部会では、児童の説明的文章を読む力の実態から、要旨を正しく把握して読み、筆者の説明の工夫を考えて読む力を育てる必要性を感じた。その力を付けるために、最適な言語活動を考えた。

本年度は、五年生の「固有種が教えてくれること」の学習材を用いて、児童の実態に応じて段階的に二つの言語活動を設定し、研究を進めた。

一つ目は、要旨を把握するための「秘伝の書」を完成させる活動を位置付けた。二つ目は捉えた要旨を「ハンドブック」

にまとめ、資料と結び付けて筆者の説明の工夫を紹介する活動を位置付けた。

前者では、要旨を把握するために必要な、文章全体の構成を見付けること、主張の中心となる言葉を見付けることなどを「奥義」と名付けた。奥義を習得していき「秘伝の書」を完成させることで、段階的に要旨を把握する力を育てる授業実践を報告する。

後者では、六つ折りの「ハンドブック」の面ごとに要旨や、筆者が用いた資料の役割や効果についてまとめていく。最後に筆者の説明の仕方について自分の考えをまとめるという授業実践を報告する。

《中学校部会》

「より深く読む力」の育成を 目指して

篠原 嶺

各研究委員が日ごろから感じている問題意識をもとに、中学校部会では次の資質・能力の育成を試みた。「比較読みを通して自分の考えを形成する力」「文章と図表との関係に着目して読む力」「自分の言葉で文章と図表との関係性を表現する力」である。

一つ目は人工知能との共生について述べた二つの評論文を比較読みする実践である。人工知能との共生に関して賛成または反対の二項対立で捉えるのではなく、根拠や共生のあり方の違いを読み取る。そのため、同じ観点で文章を比較できるワークシートとキーセンテンスから立場の違いを整理できるワークシートを作成した。

二つ目は文章と図表との関係に着目して読むことで、図表の効果を理解する実践である。段階的に指導していくことで

学習内容の定着および発展が可能となるようワークシートを工夫した。さらに、本単元で培った力が他の教材や他の教科でも生かされる国語力となることを目指した。

両実践に共通していることは、根拠や理由を明確にして「より深く」読むことを目指している点である。これら実践の成果と課題を生徒の学習する姿や取組の過程から明らかにする。

国語学力診断について

近年の児童生徒の減少にもかかわらず、多数のご採用をいただき、ありがとうございます。学力診断実施後は、全県集計にご協力ください。中学校の学力診断は休止とさせていただきます。小学校のみの実施となっております。

本年度も、すべての学年において、「検査細目」を基にして問題を作成しています。これは、学力診断が、学校の教員や児童生徒に対して土台となる基盤的な事項を具体的に示すものであり、教員による指導改善や、児童生徒の学習改善・学習意欲の向上などに役立つようなものでありたいという考えによるものです。(傍線部は、「令和3年度 全国学力学習状況調査 解説資料」国立教育政策研究所教育課程研究センターより引用)

本診断についてのお問い合わせは、左記までお願いいたします。

平城小(〇七四二一四五・四二五一)
石原 宏一郎

役員名簿

令和3年度 奈良県国語教育研究会

〈顧問〉	上北 浩平
〈会長〉	稲浦 寿子(生駒台小)
〈副会長〉	辻井 賢次(大淀中)
	中永 和美(旭ヶ丘小)
	今西 敏幸(都祁小)
	鎌田 明美(新庄小)
	東畑 年昭(鼓阪小)
〈監査〉	辻 博暢(真美ヶ丘中)
	吉川 洋也(大正小)
〈指導〉	坂田 喜昭(県学校教育課)
	表 恭子(県学校教育課)
	小岩 智子(県立教育研究所)
	浅井 真紀(個人権・地域教育課)

宇陀市	森川 敏和(曾爾小中)
橿原市	香美 秀央(鴨公小)
	友金 裕雅(畝傍中)
高市郡	内海 正樹(たかむち小)
大和高田市	松本 吉央(陵西小)
	佐藤 政幸(片塩中)
香芝市	中永 和美(旭ヶ丘小)
葛城市	鎌田 明美(新庄小)
北葛城郡	松村 公世(王寺北小)
	辻 博暢(真美ヶ丘中)
御所市	吉川 洋也(大正小)
	西邨 三郎(葛中)
五條市	上明代恵子(五条西中)
吉野郡(西)	下村 倫代(十津川第二小)
吉野郡(東)	辻井 賢次(大淀中)

奈良市	沼田 麻由(明治小)
山辺郡	辰巳 将也(都南中)
天理市	高倉 敦史(やまぞえ小)
	松田 桃子(山の辺小)
	山本 弥保(福住中)
大和郡山市	木内 全(郡山南小)
	鈴木智恵子(郡山西中)
生駒市	福井 景子(生駒台小)
生駒郡	鍵谷 昇(大瀬中)
	魚谷 千晃(斑鳩西小)
磯城郡	増田あすみ(平群中)
	大山 久代(平野小)
桜井市	吉田 雅美(田原本中)
	柿村由美子(朝倉小)
宇陀市	松本 知幸(大三輪中)
宇陀郡	垣内 有子(菟田野小)
	森 貴子(曾爾小中)



事業計画

一 秋季研究大会

期日 令和三年十一月五日(金)
 会場及び実施方法
 曾爾村立曾爾小中学校

宇陀郡曾爾村小長尾九〇〇
 からのGoogle社Meetを利
 用した動画配信

内容 ・学習公開(二・三・五年)
 ・研究主題についての研究発表
 ・記念講演

作家・詩人 寮 美千子氏

二 冬季研究大会

期日 令和四年二月十五日(火)

会場 県立教育研究所

三 研究主題にかかわる研究・実践

内容 国語学力診断結果報告
 (研究委員会)

主題 付けたい力を育む「読むこと」
 の学習活動の創造と説明的文章
 における学習過程の具体化

四 国語学力診断の作成・結果分析

内容 国語学力診断の作成・結果分析
 (作問委員会)

五 会報の発行

(第一一三号・一一四号)

六 その他

全小国研、全中国研主催の全国大会
 への参加など

編集後記

今後も、県内の国語教育の動向を
 知る情報誌として、紙面の充実を
 図っていきたいと思います。ご示唆、
 情報等おありでしたら事務局までお
 知らせください。(東)